

令和4年度第2回都市機能の整った快適なまち推進懇話会概要

日 時 令和4年10月12日（水）

午後3時～5時

場 所 逗子市役所5階会議室

・議題

- (1) 都市機能の整った快適なまち推進プランの事業進行管理について
- (2) その他

・出席者

佐藤晴大座長 武藤浩二副座長

田中克己メンバー 石井達郎メンバー 関基治メンバー

雲林隆継メンバー 須田正二メンバー

・欠席者

長坂祐司メンバー 木谷和三郎メンバー 仁科英子メンバー

・事務局

須田環境都市部担当部長 津田都市整備課長 大澤都市整備課副主幹

津金都市整備課主任 坂本環境都市課係長

1. 開会

事務局より、令和4年度第2回都市機能の整った快適なまち推進懇話会の開催を宣言した。

また、開催にあたり須田担当部長より挨拶をした。

2. 議題

議題に入る前に第1回に引き続き、座長を社会空間研究所 佐藤メンバー、副座長を沼間住民協 武藤メンバーとし、以下、座長により会議進行をした。

議題

(1) 都市機能の整った快適なまち推進プランの事業進行管理について

座長より事業進行管理についての説明。第1回の懇話会で意見を聴取した重点事業とリーディング事業以外の事業について、議論していく旨を説明した。

(質疑応答・意見)

基本目標(1)：都市環境の改善

取り組み①：道路環境の改善

アクション：市内の交通改善

【佐藤座長】木谷メンバーより早期実現事項と直近事項を分けて整理した内容にしては、基本的には順調であるとの意見があった。

【石井メンバー】歩行者・自転車のまちの趣旨としては、狭いまちなので自転車を有効活用して、自動車を増やさないようにした上で交通の流れを改善するということであったと思う。事業は色々行っているようだが、成果は全然上がっていないと思う。例えば県道の渋滞も全然変わらないし、駅前の根本的な部分については色々見直さないといけないのでは。

また、自転車のマナーがひどくて、山の根地区は対面で歩けない歩道を自転車で走っており非常に危ない。例えば警察と連携して取り締まりを厳しくするなど、抜本的な見直しが必要であると思う。

【武藤メンバー】石井メンバーと同意見である。また、平成3年度の実績内容を見ると、記載内容は確かに実績であるが、その事業を実施してこのような効果が上がったというような記載を期待していた。そのことを含めもう一回見直しできるのかどうか、それが無理であれば来年度に向けて、より効果が出るような取組内容を記載して、もう少し具体的にならないかと思う。

【石井メンバー】 デマンドタクシーは高齢化社会が進んで免許を返納した後に、公共交通機関のない高地に住んでいる人たちは、極端に言うと生活難民になってしまうため、代替のものとして考えたと思うが、アーデンヒルでは頓挫してしまったと聞いている。ねらいとしてはいいと思うが、今後どうするつもりなのか。

【事務局】 デマンド型乗合タクシーの実証運行としてアーデンヒル地区と東逗子駅前、この2点間を結ぶという、タクシーを活用した乗合型の旅客運送ということで、結果としては70万円ほどの年間の負担となった。この運行費用を市が恒常的に負担するというのも難しい部分があるので、地域の方が主体となって運行していく形ができないかということが令和3年度に実施したのものとなる。結果としては、自治会の総会に諮るまでに至らず、班長会でそれだけのコストがかかるのは慎重になるべきではないかというご指摘があり、本格導入、本格運行はできなかったという状況である。

担当として地域の方や運行事業者と何度も話して実施してきた中では、利便性が低いと利用者がなかなか伸びない。一方で、例えば運行の本数を増やしたりどこでも乗り降りできるようにしたり利便性を高めていくと、逆にコストに跳ね返ってしまう。そのバランスが非常に難しいが課題は見えてきた。また、国内では本格運行まで至っている事例が数多く出てきている状況はある。

令和4年度については、他市の事例についてヒアリングをしたり、予約については令和3年度は電話での予約のみとしたところだが、スマートフォンで予約ができたりなど使い勝手のいいシステムを導入することが利用の促進にもつながると思われ、どのような条件であれば逗子市にマッチした運行の形になるのかというところをもう一度見直しているという状況である。それを踏まえて、地域の方ともう一度協議を重ね、運行事業者等の関係機関とも連携をして行っていく。

【石井メンバー】 料金設定も含めて収入と支出の額が全然違うため、見通しが甘いと思うが。

【事務局】 70万円というのは今回の実証運行の本数をそのまま実施した場合の金額ということで、もう少し運行本数を絞ったりすることにより、コストは下げられる見通しもたっていた。それを説明した上で、総会まで諮ることができればと考えていたが、その前にストップという形になってしまったので、そこは見通しが甘かったというのはご指摘の通りだと思われる。

【石井メンバー】 市内の交通改善は何のためにやるのかという本質的な問題があって、そのために今はできないかもしれないがこれからどのようにしていけばよいか考える。自転車のマナーにしても警察と連携してより強制力をもって行っていくなど発想を変えてみるなどしたらどうか。か

なり真剣に深く考えないといつまでたっても上辺だけで終わってしまう。

【武藤メンバー】歩行者と自転車を優先するまちアクションプランが今年見直しと書いてあるようだが、もう少し具体的な目標みたいなのを定めるような見直しというのはできないのか。

【事務局】アクションプランは今年度までが計画期間ということで見直しをして、令和5年度以降に新しいプランでスタートするという想定でいたが、様々な内容が盛り込まれており、課題もかなり重要だと思われる。その中で現在策定中の立地適正化計画というものがあり、居住をする場所と都市機能といわれる市役所やスーパー等をどこに市の中で配置をしてそれをつなぐものが交通ネットワーク、道路や公共交通であるが、その課題を踏まえて目標を定めた上で5年ごとに見直ししていく予定である。そのような計画の策定を進めていて、その中でもアクションプランとの整合をとらなくてはいけないということもあり、どのように改定していくかを検討している状況である。

【武藤メンバー】JR逗子駅前周辺地区重点プログラムがどのようなもので、今後どのようなようになっていくのかということをお願い。

【事務局】JR逗子駅のなぎさ通り、池田通りと市役所を含めた三角になっているエリアで、歩行環境や交通体系を検討していこうということで、市民、商店街、逗子警察、道路管理者や交通事業者と一体となり、より歩きやすく出かけやすい環境づくりを目指す取り組みである。具体的なものがあるかということ、普及啓発になってしまうが、ステッカーの配布や自転車の通行帯を示す標示の検討や、逗子駅前周辺での歩行空間の確保やご意見のあった自転車のルールも含めて、交通マナーの啓発をしているのが現状である。

【佐藤座長】総合計画の中で都市計画、まちづくりに特化したものに連動して先ほどの立地適正化計画というのは存在すると思うが、全体を総括するような、例えば都市計画マスタープランのようなものはあるのか。

【事務局】今年度と来年度で2年間かけて立地適正化計画を策定するということと併せて、都市マスタープランに関しても同時に策定し、今まで総合計画と一体となっていたものを切り離して、都市計画としての逗子市のまちづくりを長期的なビジョンをもって示していく。その中で連動した効果的な対策も含めて行っていければと考えている。

【佐藤座長】市民の中でもこのようなことに興味がある方が状況を知らないという感覚がある。市が取り組んでいるものについてどのようなレベルでどのような問題を抱えていて、市民もそれに連動して努力しなければいけないといったようなことを本来知ってなければいけないのに、周知

する努力も必要だと思われる。

【石井メンバー】 現在、24年の長期の総合計画の見直しを行っているが、策定から時間が経って例えば感染の問題、人口減少の問題や財政の問題とか、高齢者の増加等色々な観点から見直そうという話だと思う。いい機会なのでより実効性を上げるためにもう一度組み直してほしい。

【田中メンバー】 4ページの市内の交通改善と6ページの安全で安心な歩行空間の確保に記載の実績の部分が同じである。4ページの市内の交通改善には交通渋滞の問題を中心に据えて、自転車や歩行者は6ページの安全で快適な歩行空間の確保に書き分けるともう少し理解しやすくなり、これからの施策や成果が見やすくなるのではないかな。

【佐藤座長】 改めて確認してみると、再整理をしていくことが必要だと思う。方向性としては、田中メンバーからいただいた意見を踏み台にして、より明確な形に再検討が必要だということが今回の懇話会の一つの成果であると思う。

アクション：既設道路における支障物の整理

【佐藤座長】 木谷メンバーより引き続き調査してほしいとの意見があった。

【田中メンバー】 電線類地中化の計画はあるのか。

【佐藤座長】 17ページに無電柱化の推進については記載があり連動するものになると思う。これは現状を把握してという段階にあるということだが。

【事務局】 17ページも含めて無電柱化に関しては市道33号という文化プラザホールの前道路と市道55号という市役所の前道路は、逗子市で平成17年、18年に無電柱化を行った。無電柱化については景観的な配慮や地震に強いところは一般的にも知られている情報だと思う。今、17ページの無電柱化の推進に記載されているなぎさ通りの無電柱化は費用対効果と土地の権原の部分が大きな課題となっている。歩行者と車が分離されていない環境の中で、電柱が占用されているという状況のため地中化はしていきたいが市の土地がない状況である。まず無電柱化を行うにあたっては、土地の整理が必要なところである。

本アクションに関しては、道路上に様々な占用物が入っているためその整理は必要かと思われる。現在、逗子市の整備でグリーンヒル団地にて道路照明灯を年間で7本ずつ程度更新をしているが、近くに電柱があれば、道路照明灯の単独柱ではなく電柱に共架するとか、複数のものを一つに共架させるという整理も必要と思い、現在そのような取組もしている。

【佐藤座長】 全体を通して、各年度の実施内容を簡潔に記載されているが、報告書参照でもよいが、実際にどのような問題が出てきて課題になったのかということも一つの成果であるので記載して

もらいたい。

アクション：都市計画道路の整備

【佐藤座長】木谷メンバーより引き続き重点計画道路について周知、整備や廃止を検討してほしいとの意見があった。未整備路線の整理は当然だと思うが、廃止も含めて事業を検討しているというところで着実に進んできているとのことなので実施に向けて計画的に進めてほしい。

取り組み②：道路の維持管理

アクション：道路舗装事業

【佐藤座長】木谷メンバーより引き続き道路等補修工事を計画に沿って進めてほしいとの意見があった。

【関メンバー】白線引きはどこで行うのか。逗子市内、白線や横断歩道が薄い場所が多い。それで、安全・安心なまちづくりという観点から横断歩道もはっきりしていることが、事故の防止にもつながるのではないかと思う。

【事務局】道路に書かれているラインは規制標示が多いため、神奈川県警公安委員会で行っている。ただ、舗装も一体で悪いというところであれば、道路舗装事業や道路維持管理事業で、警察権限のラインも含めて舗装の改修を行う場合もある。

【武藤メンバー】工事の必要性や緊急性の把握方法は、10ページの街路樹については委託しているというので、定期的を確認をして整備箇所を決めていると思うが、本アクションは市民から通報があったときには当然は動くと思うがそれ以外に把握方法はあるのか。

【事務局】道路に関しては、主に幹線道路や市民の方から要望された路線の路面の状態を調査し、それを基にして、舗装維持修繕計画という5か年の計画を立てて、修繕の優先度を決めている。しかし予算がついておらず、実績が伴っていないというところもある。

【武藤メンバー】全体がこのくらいの予定であり、3か年でそのうちのどのくらい施工するというものがあると、より評価ができると思う。

アクション：道路アダプト団体との協働による維持管理

【佐藤座長】木谷メンバーより引き続き道路アダプト団体と協働して維持管理を進めてほしいとの意見があった。

アクション：街路樹の維持管理

【佐藤座長】木谷メンバーより引き続き適正に管理してほしいとの意見があった。

【石井メンバー】久木住民協の区域であるハイランドの桜だが、樹齢が50年から60年経ち寿命が来

ている。そのため、維持管理に費用がかかっていると思うが、どこまで今の樹木で維持管理するつもりなのか。

【事務局】 ハイランドとイトーピアの桜の木は、樹齢50年以上で老朽化が著しいということで、樹木医による診断結果が出ており、C判定以上の危険木に関しては伐採をしているが、道路、車や家屋に損傷を与えたことにより年間1、2件の道路賠償責任が発生しており、維持管理も伐採する費用がかかっている。樹木に関しては人それぞれの価値観があり色々な意見があるが、久木ハイランド自治会に関しては、方向性の合意形成を住民で募ってほしいと依頼をかけている状況である。また、市と自治会で協議しながら、市の維持管理費をある程度軽減するために間引きをするとか改良型の桜の木に植え替えして根張りをしないものにするとか、全国の事例があるので、うまく進めることができるといふ思いはある。

【関メンバー】 桜、特にソメイヨシノであるが、ベッコウダケという菌が古くなるとつきやすいので、診断は樹木医で定期的にやる必要があると思う。また、総合的な路線で樹木の活力度判定を早急に行い、危険なことは示したほうがよい。ハイランドの問題は、間隔がすごく狭く植えられていることが衰退化の原因の一つではないかとは思っているのと、根上がりを起こすため、道路にあまり向かない木でもある。それを防ぐことは道路の安全対策の一つになるので、まずは個別にやるのではなく全体の調査図を作り、住民に十分説明しないと駄目なので伐採しないでほしいと言っている住民もいる。鎌倉市側はそのような理由でなかなか伐採していないし伐採させないという状況がある。それは間違っていると思うが。総合的に判断しながらしっかり行ったほうがよいと思う。

【佐藤座長】 コストにしても色々な工夫があり、古木も切って捨てるだけではなく活用する方法がないか等、様々な考えはあると思う。

【石井メンバー】 実績の部分だが、街路樹診断結果を考えて37本伐採した。これが妥当ということが分からない。

【佐藤座長】 事業を実施する上で計画等に基づいた実績を記載していかなければ評価が難しいと思う。

取り組み③：下水道の管理等

アクション：下水処施設の長寿命化、下水道施設の地震対策、合流式下水道の改善対策

【佐藤座長】 木谷メンバーよりいずれも引き続き計画的に進めてほしいとの意見があった。

【石井メンバー】 老朽化で下水道管がかなり古くなっており、水道では漏水等色々な問題が全国的

に起こっていると聞いているが逗子の管路は健全だと言えるのか。それとも何とかしなければいけないのか。

【須田メンバー】下水道管の延長は、逗子市で250キロあり、そのうち40年以上経過している管路は50%を超えている。下水道の管路自体の調査は10年ほど前にカメラ調査を行い、損傷が発見された箇所については補強処理（更生工事）を去年からアザリエ団地より始めている。

カメラ調査では、比較的大丈夫な箇所と大変な状況となっているのは、落差があり、当然大変な状況になっている箇所や振動が多いところについては、管がずれたりマンホール自体がゆがんでいる等あるので、そのような場所はある程度把握はできているので、順次工事を行っていく。

【石井メンバー】現状把握はできているのか。

【須田メンバー】大体できている。ただし、工事を行って10年、20年経っていくうちにまた傷んでくるところが出てくると思うので、それを繰り返していく。

【田中メンバー】順番に老朽化の部分直すというのは分かるが、もし関東大震災級のものがあつたときにどのような状態になって、どういう準備をしなければいけないのかという懸念がある。例えば簡易トイレをどうするとか、あるいは現場視察で見たマンホールトイレを準備して、どの程度の地震の規模だった場合にどのくらい復旧を待たなければならないのか。

【須田メンバー】地震によってどの程度の損害を受けるのかということは想像つかないが、下水処理場自体については非常に耐震性は弱い。そのため汚水が流れてきても、処理場が使えないとそのまま海に流れてしまう。また現在、逗子の下水道管は耐震化が図れておらず、昨年度に耐震化計画を作り、今年度は詳細診断を行っている。ただし250キロある下水道管が全て国庫補助対象になるのではなく、主要幹線道路や避難所に向かう道路に埋設した下水道管しかならないが、そのようなところを重点的に調査して下水道管の耐震化を図っていく。来年度実施設計を行い、令和6年度から実際に工事を始めていく予定である。そのため、下水道が使えなくなった場合については個人である程度の準備はしておいていただいたほうがよいと思われる。

各小学校に現地視察で見たようなマンホールトイレを作っているが、大体500人が使って3日経つといっぱいになってしまう。いっぱいになった時点でバキュームカーにより吸い取らなければならない。実際に地震が来たときにそれができるのかということが疑問である。

【佐藤座長】13ページの下水道施設の地震対策についての令和3年度の実績に第一運動公園内に2組、令和4年度に1組整備が進んでいると記載しているが、それで十分なのか。

【須田メンバー】本市が整備を少しずつしか行えていないということは事実だが、令和3年度以前

に、小学校5校は既にマンホールトイレの整備ができています。令和5年度は久木中か沼間中のどちらかを施工予定である。避難所についてはマンホールトイレを毎年1つずつ増やしていくという事で、整備は進めている。

【佐藤座長】 何度も話をしているが、懇話会の意見のところに書く内容は難しい。今後も引き続き計画的に進めてほしいとしか言いようがない。

【須田メンバー】 下水道事業は合流改善、長寿命化と地震対策、3つここに出ているが、この中でもやはり優先順位というものがある。合流改善は既に下水道が整備されている雨水と汚水の合流地区に対して分流化をするということで優先順位が下がり、長寿命化と地震対策の優先順位が高くなる。限られた費用の中で工事をしていくため、長寿命化と地震対策を重点に行っていく。合流改善は時間をかけて施工することになる。

【佐藤座長】 いずれにしても、着実に今後も取組が必要ということであると思う。

【田中メンバー】 雨水の処理能力について最近大雨警報や洪水警報も出るが、そのような雨の場合ほどの程度処理可能なのか。

【須田メンバー】 現在のハザードマップの内容は平成2年、3年の調査をもとに作っているが、1時間雨量62ミリ程度の想定である。ただし現在、国のほうから1時間当たり153ミリを想定した記録的短時間豪雨というものが出ており、令和8年度までにその数値で計画を見直してほしいと言われている。来年度と再来年度で氾濫の予想を立てる予定である。

【石井メンバー】 田越川は50ミリ、60ミリ降ったらあふれるという認識であるため150ミリ降ったらあふれると思う。

基本目標（2）：バリアフリー化の推進

取り組み①：道路環境のバリアフリー化

アクション：無電柱化の推進、市道のバリアフリー化、国・県道のバリアフリー化

【佐藤座長】 木谷メンバーよりいずれの事業も引き続き具体化に向け協議を進めてほしいとの意見があった。

【関メンバー】 無電柱化については景観上いいことだが、難しい課題がある。構造上電柱は交差点の角にあることが多い。車で通るとちょうど人が電柱から出てきて危険なことが多いのでそこだけでも無電柱ということはできないか。また、そこだけ地中に入れるというのは難しいのであれば移動する等できないのか。

【佐藤座長】 5ページの既設道路における支障物件の整理には電柱、道路照明灯とカーブミラーの

移設の調査研究ということが記載されている。特に交差点は交通安全上非常に問題が多いということ
ことで優先度が高いのではないかと。

【関メンバー】住民協にアンケートを求めてもよいのでは。危険ではという住民の意見を受けて一つ一つ調べるのではなく、アンケートで集めたほうが意見が集まりやすいと思う。

【佐藤座長】よくニュースで事故が起きてから危ないと言っていたのにと話があるのは、非常に悲しいことだと思われるのでアイデアとしていいと思う。

市道、県・国道のバリアフリー化については、冒頭でも道路空間が非常に限られているのが逗子市の特性である中で、高齢化社会であり子供たちも安全にというところで、非常に重要になってきていると思う。

【武藤メンバー】要望としては調査研究ではなく、具体的に事業化してスピードアップしてほしいと思う。

【石井メンバー】県道の金沢新道踏切だが距離が長い。年寄りが踏切を渡りきれなくて危ないというケースを時々見る。命に関することであり、例えば歩道橋にエレベーターをつけて上から行くという方法があると安全だろうという意見がある。

【事務局】その意見については、同様の意見を別の市民からもいただいている。県道であるため管理者である神奈川県横須賀土木事務所道路維持課に報告をしている。今後高齢化が進む中で、そのような事象が増えてくるのではという事実をまずは把握してもらうことが大事だと思われる。

【佐藤座長】逗子駅にエレベーターはあるのか。

【事務局】エレベーターはあるが、山の根側から逗子側へのアプローチは鉄道利用者でなければ入れない環境である。自由通路のように一般的な人がアプローチができるような環境があればいいが、自治体がまちづくりの一環として作らなければならないので、そこは一つの課題だと思う。

取り組み②：公共施設のバリアフリー化

アクション：市民協働による公共施設のバリアフリー化の推進

【佐藤座長】木谷メンバーより公共施設の整備に合わせてバリアフリー化を進めてほしいと意見があった。公共施設は誰でも利用できるようにすることは基本になっているが、現状でどのくらい進んでいるのか。

【雲林メンバー】バリアフリー懇話会は目、耳、体に障がいのある方、障がいのある方の団体の代表の方、高齢者の団体の方、社会福祉協議会等に参加していただいている。趣旨としては、道路も含めて、市で施設を新築や大規模改築する場合には、まず建築基準法に基づいて、さらに神奈

川県でもバリアフリーみんなのまちづくり条例というものがあり、その条例に適合した上で当事者だけではなく、ユニバーサルデザインの考え方から、子供、親、高齢者や障がい者等全ての人を使いやすいようにという観点から意見を出していただいている。

市内でどの程度バリアフリー化されているかについては、例えば市営住宅はバリアフリー化が済んでいると話しを聞いたが、バリアフリー懇話会の対象の案件があって、懇話会を開いているが、どの程度かということは障がい福祉課としては把握していない。

【佐藤座長】一般的に公共施設は老朽化が進んでいるというイメージがあり、中途半端にお金をかけるのもどうかという考え方もあると思われる。理想論かもしれないが、東逗子駅前の再開発等により公共施設を集約していく中で、誰でも使いやすいように当然と思う。その際に、老朽化した建物は統廃合される中で、全体としてバリアフリーのレベルが上がっていくので計画的に大規模改築や新築をする場合は懇話会で意見を聴取していくということが基本的な対応になると思われる。ただし、進行管理と言われた際にどのように評価するかは難しい。

【雲林メンバー】平成28年度以降は市の財政的な事情もあり、公共施設を再整備するということは、しばらくなかった。今年度、沼間小学校で放課後児童クラブの建替えについて久しぶりに懇話会を開く。意見を聴取する場が久々にあるということで、今後、再整備のような案件が出てくれば、また意見を聴取して反映していく場が出てくると思う。ただし、修繕等は反映しづらい。

【石井メンバー】全体で目標はどのくらいで現在どうなっていることが分からないと評価のしようがない。工夫できないか。

【佐藤座長】市全体のバリアフリー計画はあるのか。総合計画の中に含まれているのか。

【雲林メンバー】障がいの分野ではない。バリアフリー法に基づいて、そのような計画を今後市として作るかどうかは可能性としてある。

【佐藤座長】現段階では計画的に進めてできるだけ効率的にしてほしいということに記載する以外ないと思われる。根本的に目標やそれに至るプログラムがないと評価が困難であるので、来年度以降、よりよい形に改善する検討が必要だと思われる。

全体を通して

下水道経営戦略を資料として配布

【須田メンバー】下水道経営戦略というものがあるが、これは国の指示に基づいて令和2年度に作成したもので逗子市の下水道の経営の内容が記載してある。懇話会に関係する内容では、投資計画が出ており、長寿命化対策、地震対策、合流改善、再整備というところで、令和元年度から令

和12年度までの事業の金額や規模が書かれており、ストックマネジメント計画や地震対策計画等を策定した上で事業を実施していく。

【武藤メンバー】 逗子市の広報誌に下水道料金のPRをしているが、今の話しもこのような問題があるということをPRしてもらいたいと思う。

【須田メンバー】 9月に下水道月間があり、再整備や長寿命化等も説明したもので1ページ分広報に依頼したが4分の1に削減されてしまった。

【佐藤座長】 例えば逗子市のまちづくりのようなパンフレットがあって、都市計画関連事業の将来像とこのような事業を実施しているということが漫画のようなもので冊子として市民に閲覧してもらえるようなものも必要ではという気がする。地域の自治会等が前向きに考えていただくためには、広く実態を知っていただく必要がある。一緒にやっていきたいという意識に結びつくようなものが何かあればと思う。

(2) その他

【事務局】 本日いただいた意見をまとめ、事業進行管理表を今の形ではあるが完成して、概要と併せて送らせていただく。

第3回懇話会については3月に開催することを考えており、本プランに関係のある事業の現地視察を考えているので日程は通知する。

今、逗子市の課題としては、下水道が大きな課題となっているので、関係資料を配付すると同時に浄水管理センター再整備があり、現場を見ることが大事だと思うので、所管と調整のもと視察先を検討したい。